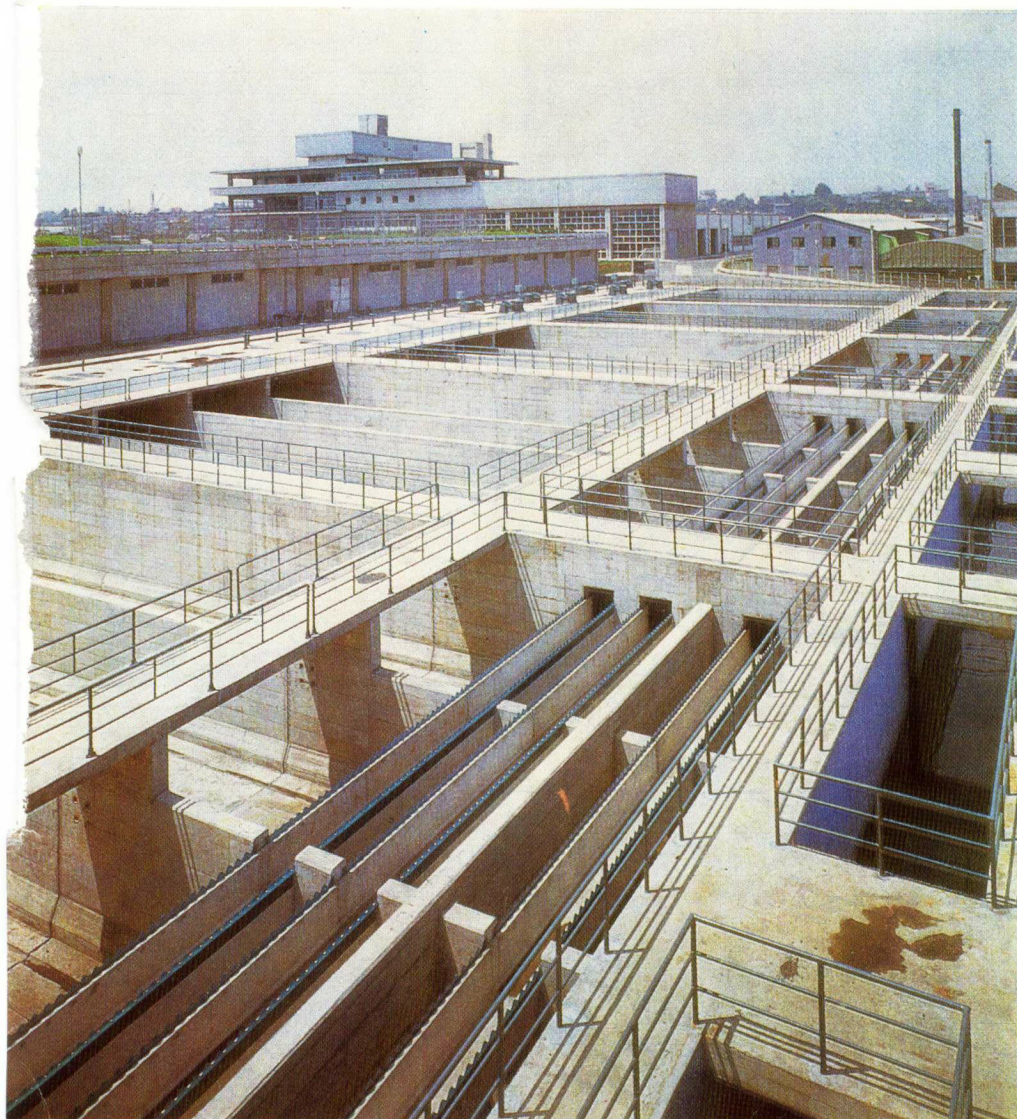




美しい 東京都落 合処理場

昭和35年に着工、昭和38年より一部運転を開始した東京都落合処理場は、計画人口1 230 000人、排水面積6 151 haを誇る新鋭処理場で東京都新宿区上落合1丁目地籍6.9 haの敷地

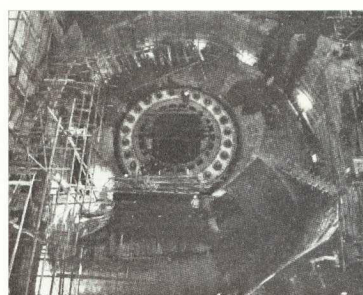
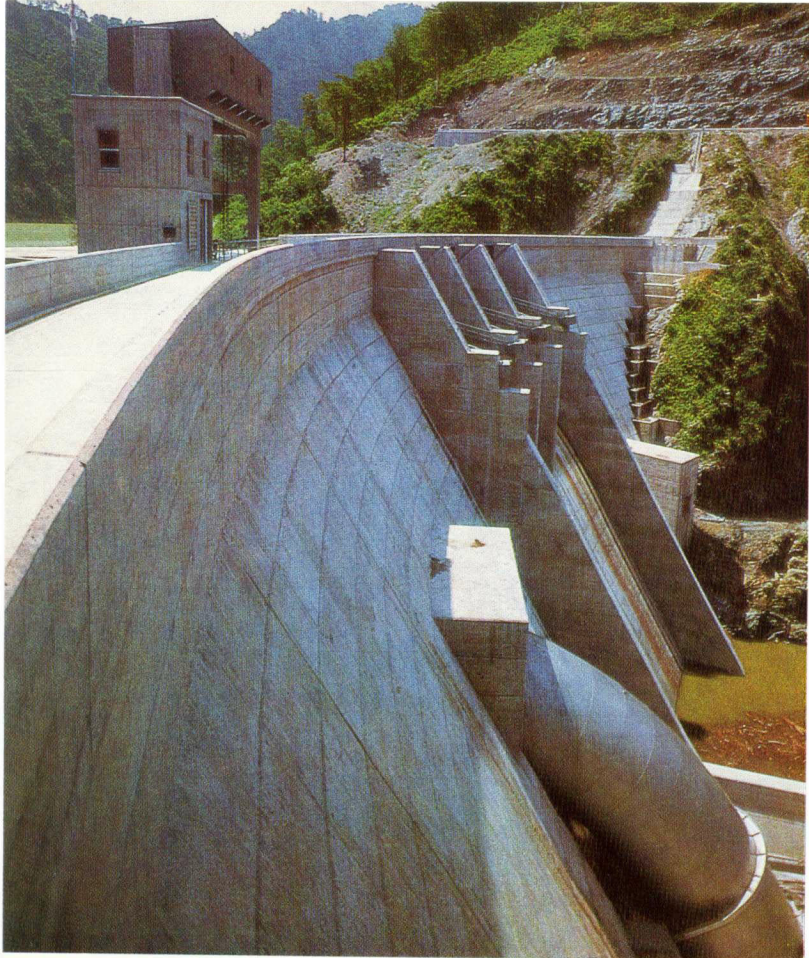
SECOND INTERNATIONAL CONFERENCE ON WATER POLLUTION RESEARCH



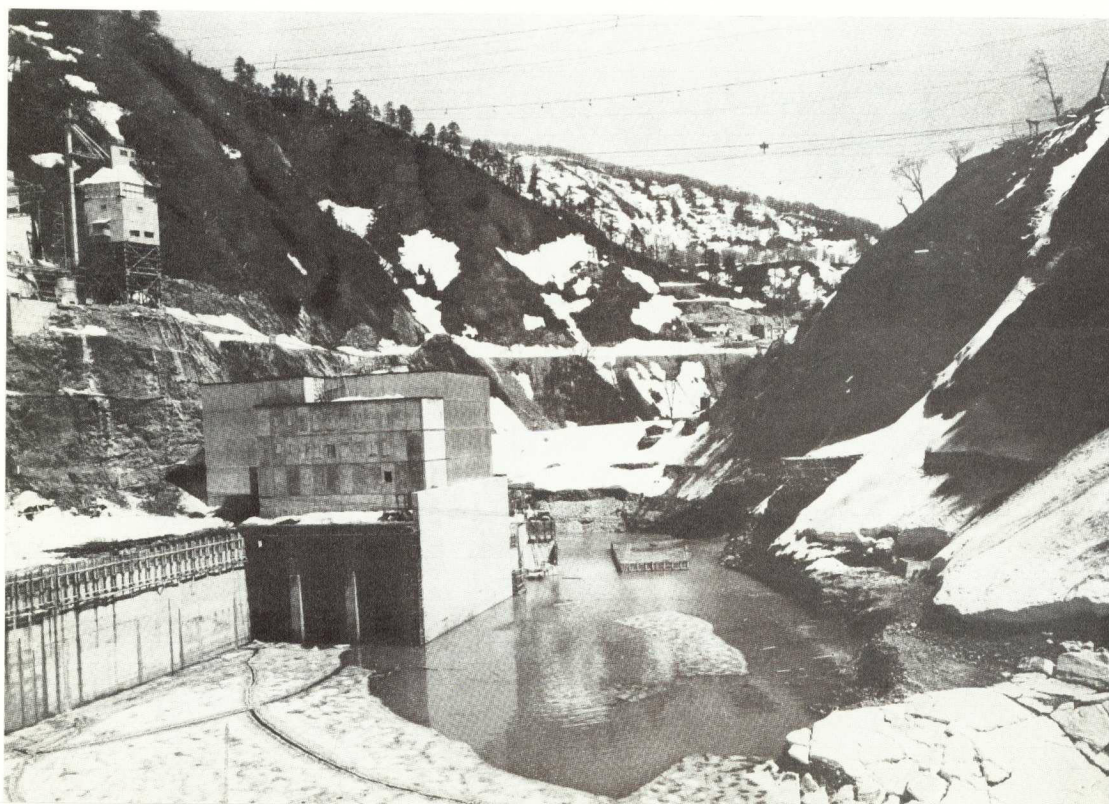
にある。当処理場は環境上、防臭・美化などに特別の考慮をほらい、沈砂池・スクリーンは本館内に収容し、前ばっ気槽・第一沈殿池は鉄筋コンクリート板で覆われている。さらに、ばっ気槽には鉄筋コンクリート屋根を施し、その表面は公園として都民のリクリエーションのため広く開放されている。なお、本処理場の計画処理水は一日平均360 000 m³である。

写真・第二回国際水質汚濁研究会議運営委員会 提供

大鳥ダム完成

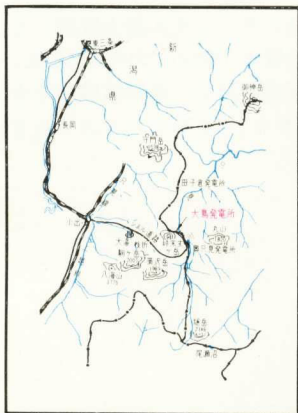


カラー写真・前田建設工業KK 提供

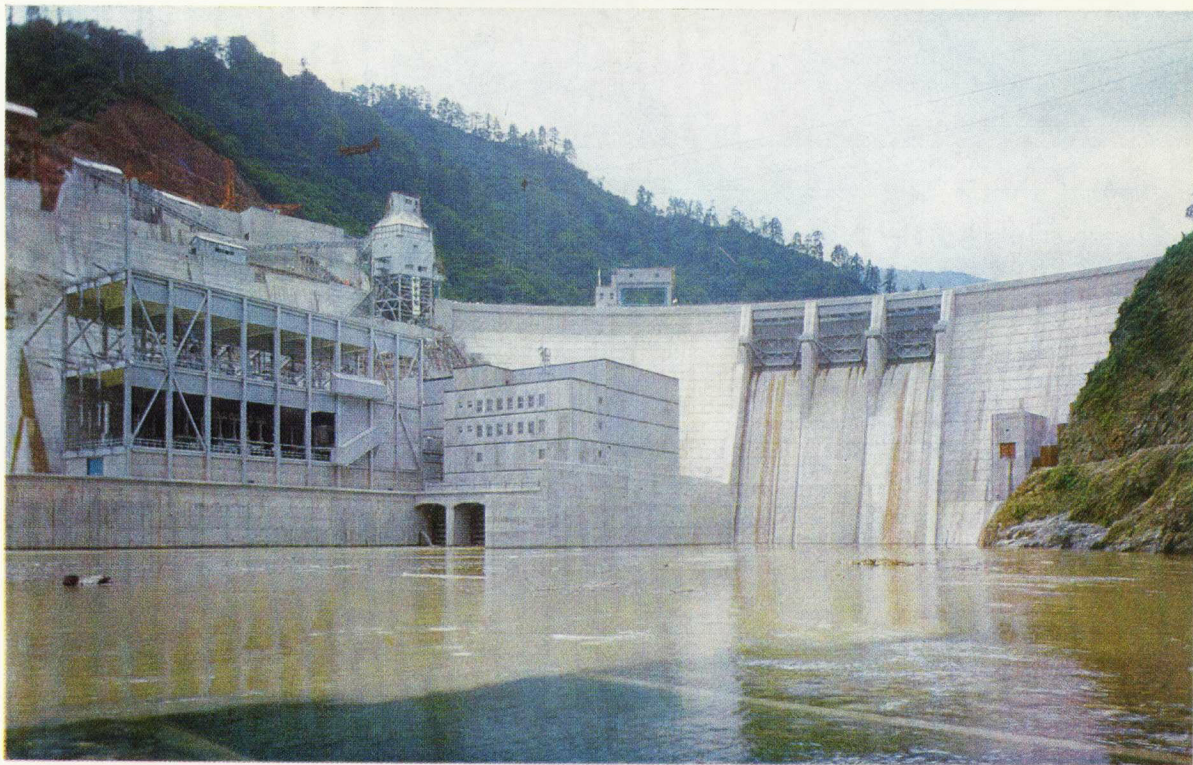
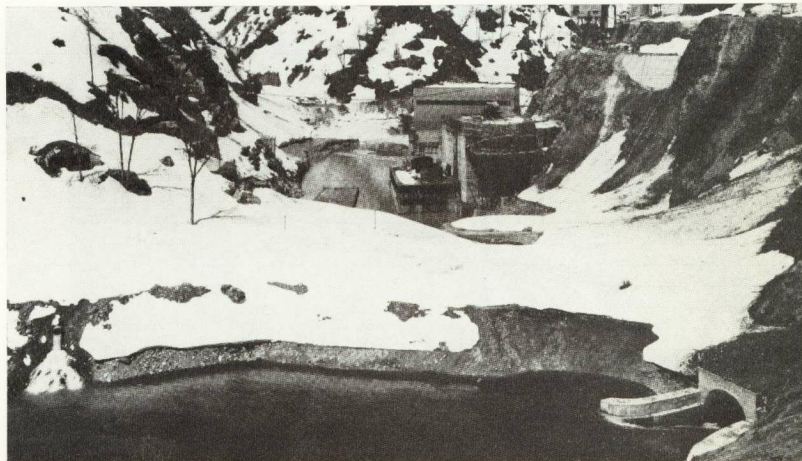


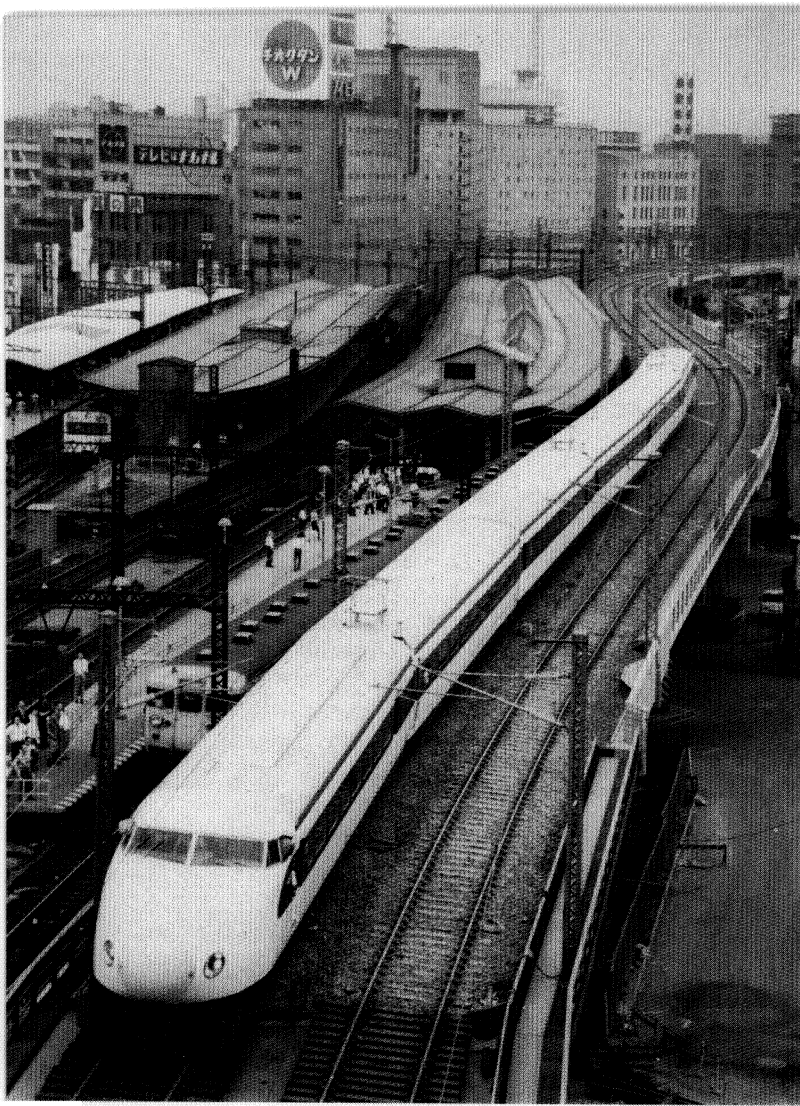
福島県南会津郡只見町は有名な豪雪地帯のため、作業可能な期間は4月下旬から12月中旬にしばらくは。最大出力36万kWの奥只見発電所と、38万kWの能力を有する下流の田子倉発電所との間の未開発落差を発電のため、有効に利用するために計画された当大鳥発電所は、奥只見の放水と奥只見ダム下流域の残水を貯溜調整し、ダム直下右岸に設けた発電所に導入、最大出力92,000 kWの発電を行なうものである。なお、本地帯の豪雪にかんがみ、工事期間短縮と将来の保守を考慮し、奥只見発電所から大鳥発電所まで延長約8.6kmのトンネル道路を設けたことと、同じく奥只見発電所から遠方制御方式をとったことが特長として上げられる。土木設備の概況(ダム)は、越流型アーチダム型式で高さ83.0m、長さ180.0m、体積160,000m³である。工事は昭和36年6月に着工され、本年6月に完成した。

当大鳥ダムは洪水の時期と継ぎ目グラウトの時期を適当に選ぶことによって、ダム内部の応力の分布を均一にする設計、施工上の特長を有している。なお、本工事報告書は本年中に土木学会より出版される予定である。



白黒写真・電源開発KK提供





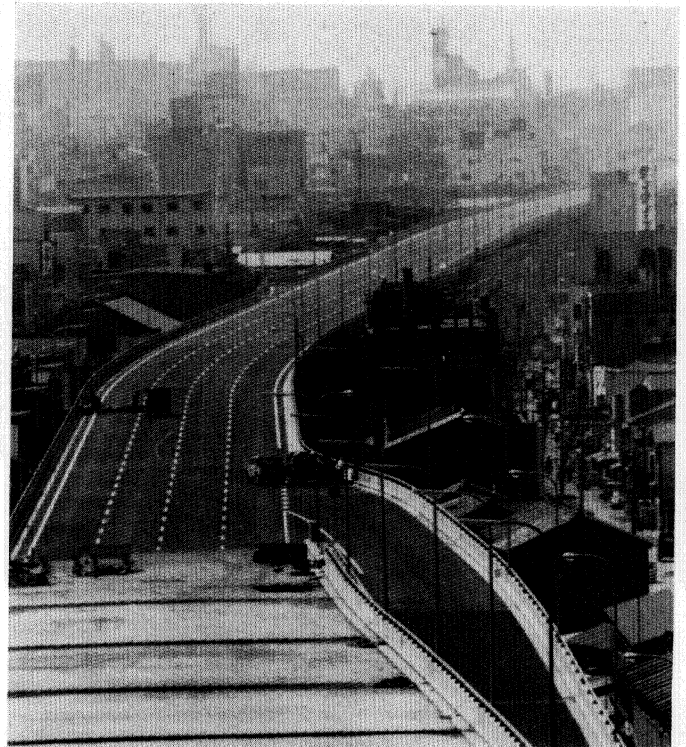
東海道新幹線 全線試運転開始

さる7月1日全線開通した東海道新幹線(本文ニュース参照)は、10月1日の開業をひかえてこのほど全線試運転に入る運びとなった。続く7月15日には「ひかり」号が初めて東京駅に乗り入れ、東京～新横浜間の試運転を行なった。また、同日西のターミナル新大阪駅にも試運転電車が初めておめえした。左の写真は同日、新橋駅構内を走る「ひかり」号を写したものである。

写真・朝日新聞社 提供

阪神高速道路・大阪一号線 土佐堀～なんば間 開通

昭和39年6月28日、大阪市土佐堀～なんば間2.305mの大阪一号線の一部が供用開始された。本写真は出入橋ランプ付近より南方向をみたものである。(本文ニュース参照)。



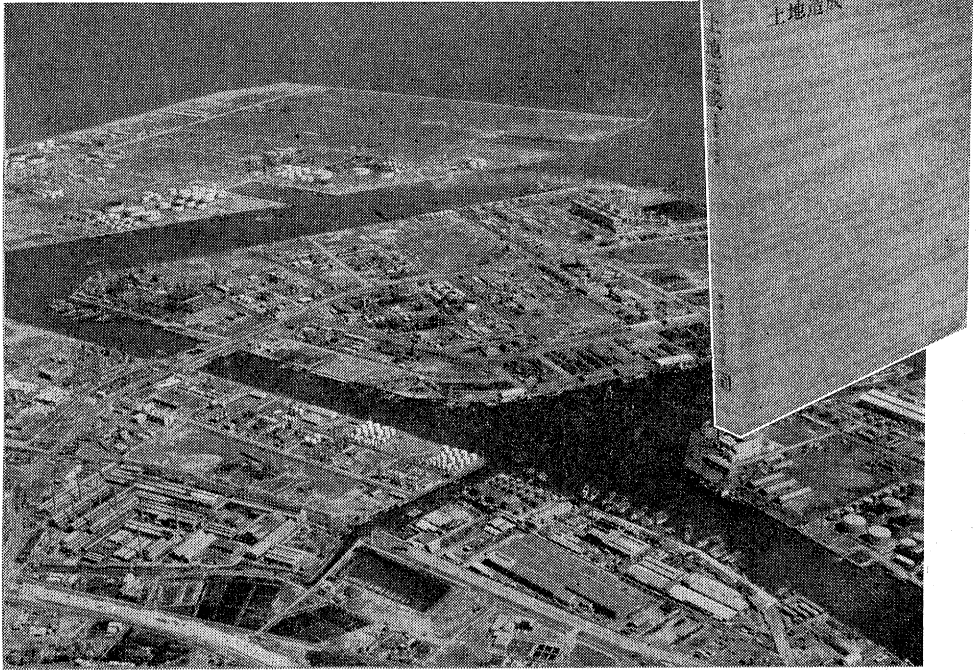
写真・建設省阪神高速道路公団監理室 提供

土地づくりの指針

土木学会監修

土地造成

A 5 判 / 上製函入 / ¥ 1,000 / 冊 120



株式会社 鹿島研究所出版会

東京都港区芝田村町 5~9
TEL(434)2321・振替東京 180883

注文書にご記入の上、お近くの書店または直接本社にお申込み下さい。

注
文
書

土木学会監修

土 地 造 成

¥ 1,000・冊 120

鹿島研究所出版会

部

ご住所

所属名

ご芳名

